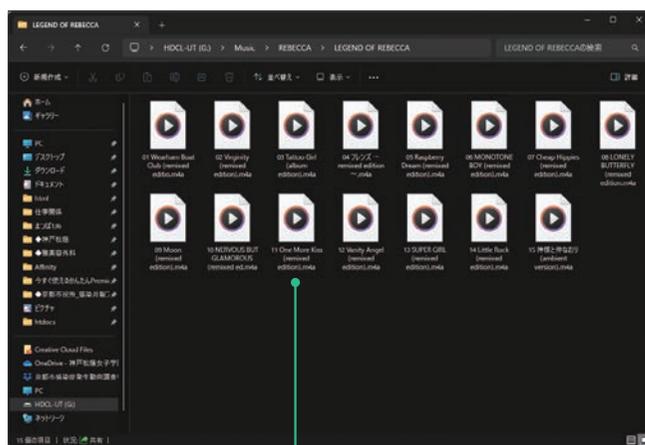
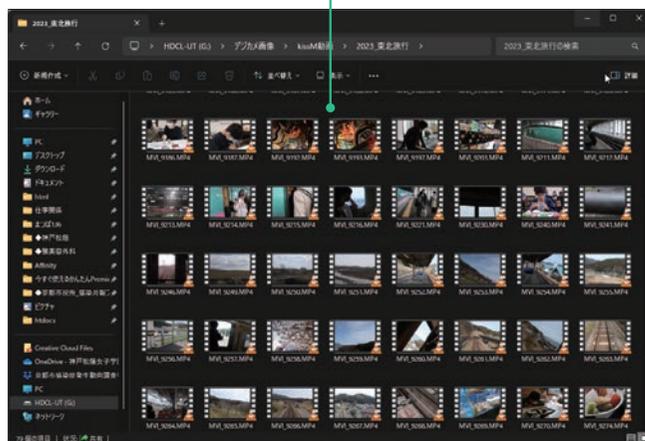


Premiere Elementsとは

Premiere Elements (プレミアエレメンツ) は撮影した動画素材をつなげたり、文字やBGMを配置したりできる動画編集ソフトです。ここでは、Premiere Elementsでどんなことができるかを確認しましょう。

1 Premiere Elementsは映像編集ソフト

1 ビデオカメラやスマートフォンで撮影した動画を素材として、



2 BGMやタイトルを付けたりすることで、1つのムービー作品として仕上げます。

KEYWORD Premiere Elements

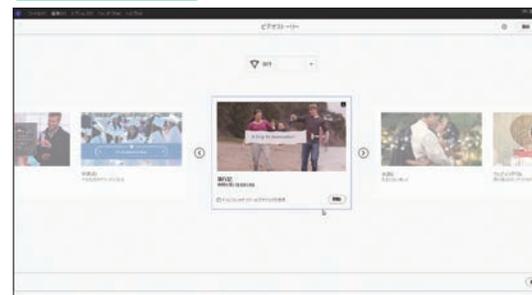
Premiere Elementsは、Adobe社が開発・販売する入門者向けの動画編集ソフトです。動画から必要な部分を抜き出してつなぎ合わせたり、BGMを付けたり、タイトルを付けたりすることで1つのムービー作品として仕上げます。完成したムービー作品はムービーファイルとして書き出したり、SNSに投稿することができます。

HINT Premiere Elementsを購入するには？

Premiere Elementsは家電量販店などの店舗で購入するほか、Adobeのオンラインストアからダウンロード購入することもできます。また、画像編集ソフトのPhotoshop Elementsがセットになったパッケージも販売されています。どちらもサブスクリプションではなく買い切りの製品です。

2 Premiere Elementsでムービーを制作する方法

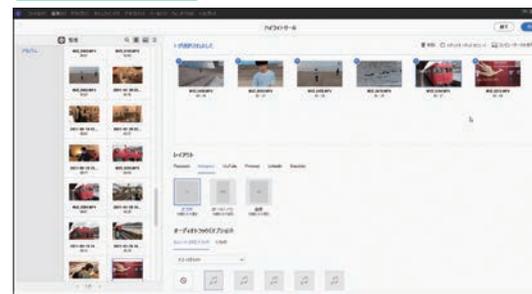
ビデオストーリー



MEMO ビデオストーリー

「誕生日」「一般」「卒業式」「旅行」「結婚式」などのカテゴリ内のテーマを選び、素材となる動画や画像を指定していくことで、テーマに沿った、見栄えのするムービーに仕上げることができます (P.214参照)。

ハイライトリール



MEMO ハイライトリール

タイムラインに動画素材を配置した後、インスタントムービーを使用すると、タイトルや音楽、並び順、ムービーの長さなどを設定するだけで、自動的にテーマに沿った1本のムービー作品に仕上げることができます (P.214参照)。

クイックビュー



MEMO クイックビュー

「エキスパート」ビューに比べて、かんたんに編集できるモードです。インスタントムービーやビデオストーリーのようにテーマファイルはなく、ある程度自由度がありますが、単一のトラックしか扱えません。

エキスパートビュー



MEMO エキスパートビュー

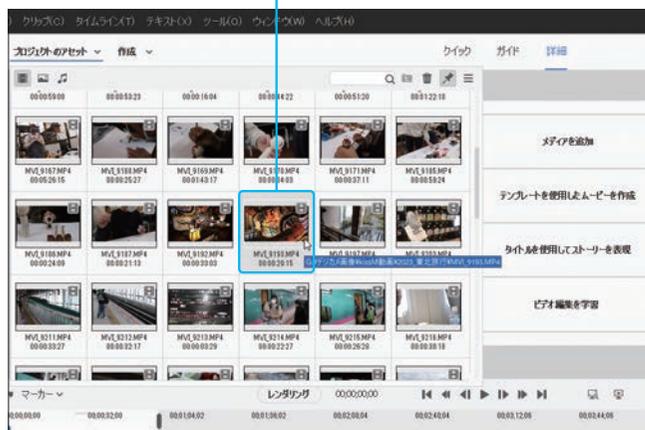
多彩な機能を利用して、自由度の高い編集ができます。素材を階層ごとにまとめるトラックがタイムライン上に複数用意され、より複雑な編集に対応します。本書では、エキスパートビューを利用した動画編集について解説します。

読み込んだクリップを再生して確認する

プロジェクトに読み込んだクリップはサムネイルが表示されますが、似たようなシーンでは内容の違いが判断できません。クリップをプレビューして、内容を確認してから作業に入りましょう。

1 クリップモニターで再生する

1 再生したいクリップのサムネイルをダブルクリックします。



2 クリップモニターが表示されました。



右上のMEMO参照

MEMO

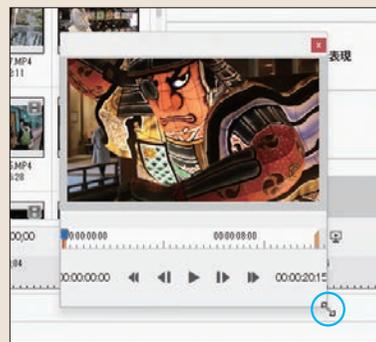
クリップモニターは
どう使う？

ビデオクリップや音声クリップの場合は、クリップモニターの「再生」をクリックすると、再生が開始します。

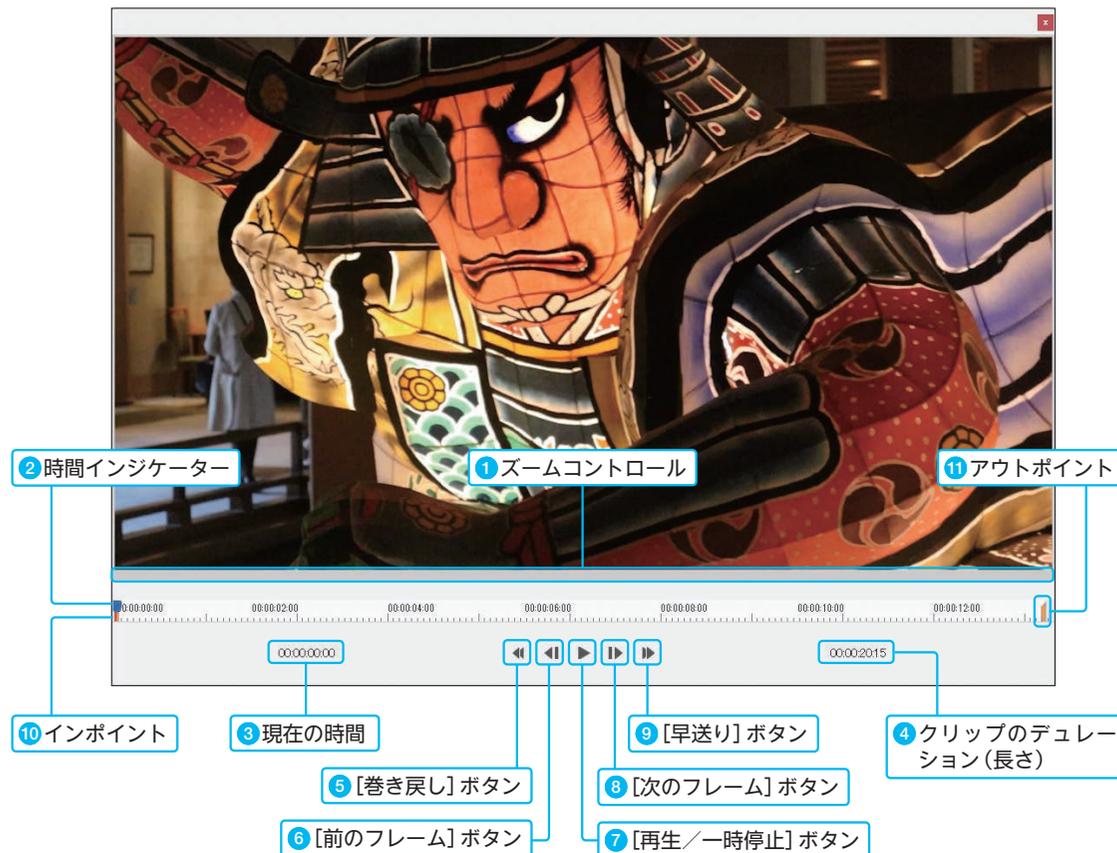
MEMO

クリップモニターを
大きくするには？

クリップモニターのコーナー部分をドラッグすることで、クリップモニターの大きさを自由に変えることができます。



2 クリップモニターの各部名称と機能



1 ズームコントロール	時間軸を拡大／縮小します。
2 時間インジケータ	現在の再生位置を示します。
3 現在の時間	時間インジケータの位置をタイムコードで示します。
4 クリップのデュレーション(長さ)	トリミングしたクリップの長さをタイムコードで示します。
5 [巻き戻し] ボタン	クリックするごとに4段階まで巻き戻し速度が速くなります。
6 [前のフレーム] ボタン	1フレーム(コマ)ずつ前に戻ります。
7 [再生/一時停止] ボタン	クリックするごとに再生と一時停止を繰り返します。
8 [次のフレーム] ボタン	1フレーム(コマ)ずつ先に進みます。
9 [早送り] ボタン	クリックするごとに4段階まで早送り速度が速くなります。
10 インポイント	クリップのトリミング開始位置を設定します。
11 アウトポイント	クリップのトリミング終了位置を設定します。



タイムコードの
数字の意味は？

タイムコードは00(時間) : 00(分) : 00(秒) : 00(フレーム)を表します。フレームとは動画や音声の1コマを表す単位で、通常、30フレームで1秒です。撮影素材によっては、1秒間で60フレームや120フレームの動画を撮影できるものもあります。

クリップをタイムラインに追加する

Premiere Elementsでは、プロジェクトに読み込んだ各種クリップをタイムラインに配置することで、編集作業を進めます。ここでは、クリップをタイムラインに配置・削除する方法について解説します。

1 クリップをタイムラインに追加する

1 [プロジェクトの資産] パネルでタイムラインに配置したいクリップを右クリックし、



2 [タイムラインに挿入] をクリックします。

3 クリップがタイムラインの [ビデオ1] トラック (オーディオクリップの場合は [オーディオ1] トラックのみ) に追加されました。



ドラッグでも追加できる

[プロジェクトの資産] パネル上のクリップをタイムライン上にドラッグすることでも、クリップを配置できます。



クリップの不一致に関する警告とは

「1920×1080」のプロジェクト設定でそれ以外のサイズの動画を配置しようとするなど、作成したプロジェクトと配置するクリップの設定が異なる場合に警告が表示されます。HDサイズのプロジェクトに4Kの映像を「現在の設定を維持」すると、動画の一部しか表示されないため、クリップの大きさを縮小する必要があります。



クリップが挿入される位置

クリップは時間インジケータの位置を先頭として挿入されます。

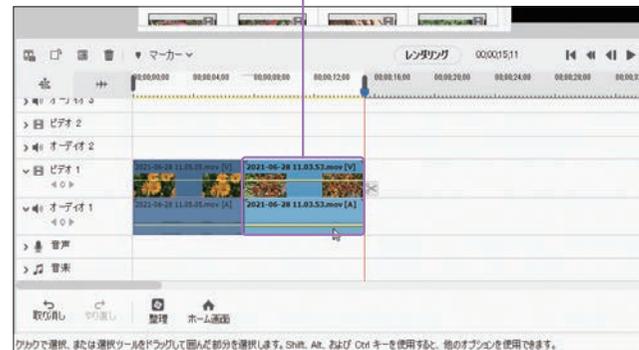


クリップに重ねて配置すると?

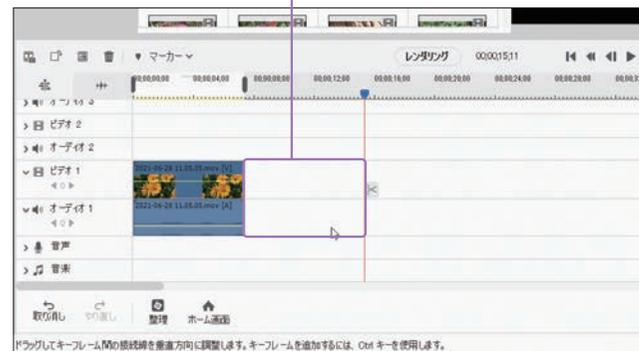
すでにタイムラインに配置されているクリップ上に重ねてドラッグすると、もともと配置されていたクリップが分割されて、その間に挿入されます。

2 追加したクリップを削除する

1 タイムライン上の削除したいクリップをクリックして選択し、[Delete] を押します。

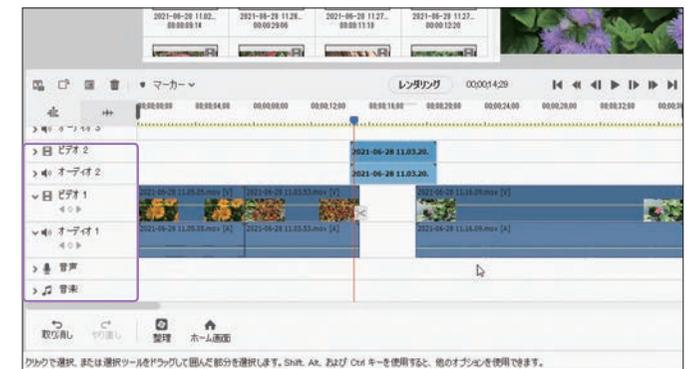


2 クリップが削除されました。



[ビデオ1]や[ビデオ2]の違いは?

タイムラインには、動画用とオーディオ用に3つずつ、また、音声(ナレーション)用と音楽(BGM)用に1つずつのトラックが用意されています。動画の上に別の動画を重ねたり、一時的にほかの動画に切り替える場合にトラックを分けて使用します。トラックは必要に応じて追加できます。トラックを追加する方法はP.053のHINTを参照してください。



削除されるのはタイムライン上だけ

削除されたクリップはタイムライン上からはなくなりますが、[プロジェクトの資産] パネルには残っています。必要であれば、再度タイムラインに配置することもできます。



[プロジェクトの資産] パネルが閉じない

クリップを追加した後、[プロジェクトの資産] をクリックするとパネルが閉じます。

クリップの明るさやコントラストを補正する

クリップが暗くて見えづらい場合には、[調整]パネルの[照明]機能を使います。通常はサムネイルを使用した簡易的な調整方法ですが、スライダーを使用した詳細設定も可能です。

1 明るさやコントラストを補正する



1 ツールバーの[調整]をクリックし、

2 [照明]をクリックします。

3 プレビューウィンドウを確認しながら、ちょうどよい明るさのアイコンをクリックします。



右下のMEMO参照

MEMO
調整を行う前に
あらかじめ、対象となるクリップをクリックして選択しておきます。

MEMO
設定をリセットするには？
左下の[リセット]をクリックすると、設定した内容がリセットされます。



4 [コントラスト]タブをクリックします。

5 プレビューウィンドウを確認しながら、ちょうどよいコントラストのアイコンをクリックします。



6 >や<をクリックしていくと、

7 [露光量][ブラック][ホワイト]などのタブが表示されます(MEMO参照)。

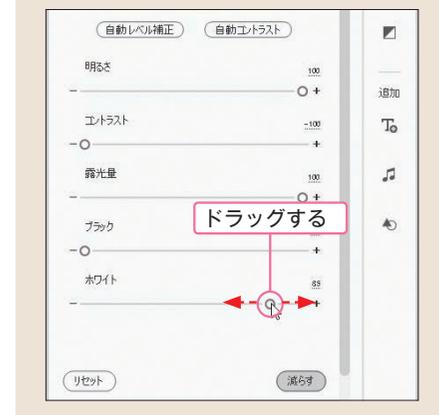
8 手順5と同様に、アイコンをクリックしてそれぞれ補正できます。

MEMO
タブごとの違い
手順4や手順7のタブには、以下の種類があります。
明るさ………明るさを調整します。
コントラスト………明暗差を調整します。
露光量………「明るさ」より自然な感じで光の量を調整します。
ブラック………画面上の暗い部分を強調する効果を与えます。
ホワイト………画面上の明るい部分を強調する効果を与えます。

HINT
詳細に設定するには？
より詳細な調整を行いたい場合は、[その他]をクリックします。スライダーが表示されるので、目的の明るさやコントラストになるようにドラッグして補正します。



クリックする



ドラッグする

HINT参照

スロー映像／早送り映像を作成する

タイムリマップの機能を利用して、動画の速度が変わる効果を作成してみましょう。例えば、サッカーの試合での得点シーンをスローで表現したり、時間の経過を表現するために早送りを使ったりなどの演出が考えられます。

1 タイムリマップで速度を調整する

1 対象となるクリップをクリックして選択します。

2 ツールバーの「ツール」をクリックし、

3 「タイムリマップ」をクリックします。

4 「タイムリマップ」画面が表示されます。

5 速度を変更したい位置まで時間インジケータをドラッグし、

6 「タイムゾーンを追加」をクリックして、タイムゾーンを追加します。

右下のMEMO参照

MEMO タイムゾーンはいくつ作れます？

タイムゾーンは複数作ることも可能です。

KEY WORD フレームブレンド

「フレームブレンド」(手順4の画面参照)をクリックすると、フレームとフレームの間を補完して動きを滑らかにします。スロー映像のときのみ有効です。

右上のMEMO参照

7 タイムゾーンの端をドラッグし、

8 タイムリマップの対象エリアを指定します。

9 スライダーを調整し、速度変化を指定します。

10 速度を変化させると、変化後のタイムゾーンの長さがデューレーションに反映されます。

11 「再生」をクリックして動作を確認し、

12 問題なければ「完了」をクリックします。

右下のMEMO参照

13 この後、音声を削除するかを確認されるので、残す場合は「いいえ」をクリックします。

HINT 速度変化を滑らかにするには？

速度が変わるタイミングを滑らかにしたい場合は、「イージング」(手順7の画面参照)にチェックを入れます。開始時の場合は「イン」、終了時の場合は「アウト」にチェックを入れます。

KEY WORD デューレーション

デューレーションとは、動画などの再生時間の長さのことです。

MEMO タイムゾーンを削除するには？

タイムゾーンの右上にある「このタイムゾーンを削除」をクリックすると、タイムゾーンが削除されます。

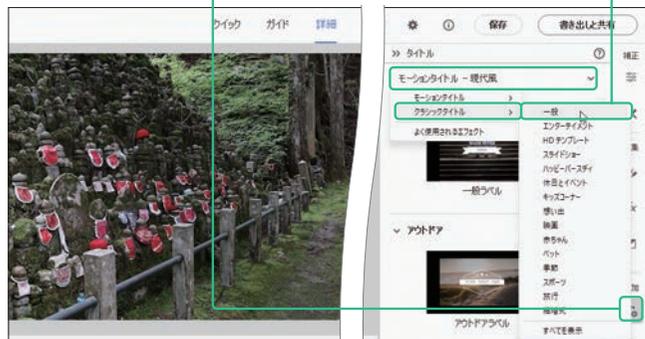
テキストを追加する

タイトルやテロップ(字幕)などを設定することで、映像に対する興味を持たせたり、理解度を深めさせたりするヒントになります。ここでは、標準的なテキストを入力する方法について解説します。

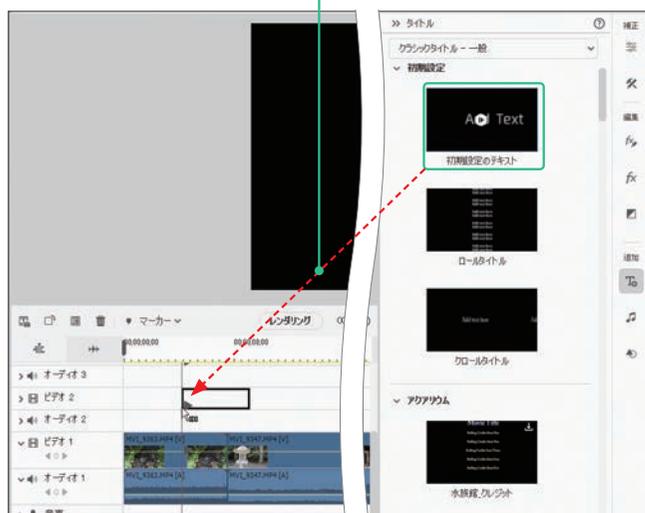
1 テキストを追加する

1 ツールバーの[タイトル]をクリックし、

2 カテゴリから[クラシックタイトル]の[一般]カテゴリを選択します。



3 [初期設定のテキスト]をタイムライン上の配置したい位置にドラッグします。



MEMO
メニューから
テキストを追加するには？

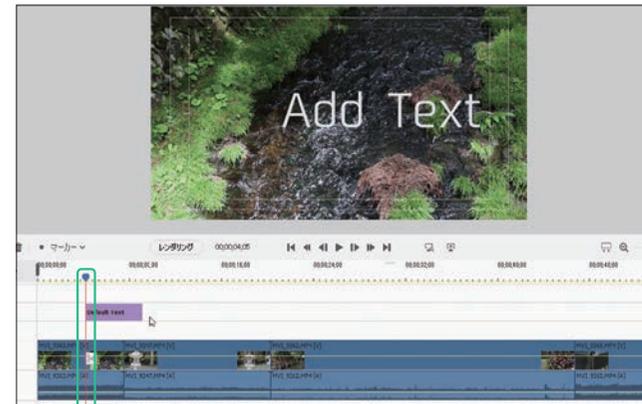
[テキスト]メニューから、[新規テキスト]→[初期設定のテキスト]の順にクリックすることでもテキストを追加できます。



HINT
クリップが
分割されてしまう場合

タイムラインにドラッグするとき、すでに配置されているクリップの上にドラッグすると、クリップが分割されてしまいます。既存のクリップの前後か、別のトラックにドラッグしましょう。

2 文字を入力する



1 テキストクリップが配置されている部分に時間インジケーターが移動したことを確認します。

2 プレビューウィンドウのテキストエリアをドラッグして、初期値の「Add Text」を選択し、新たに表示したい文字列を入力します。



3 再生ボタンをクリックして確認します。



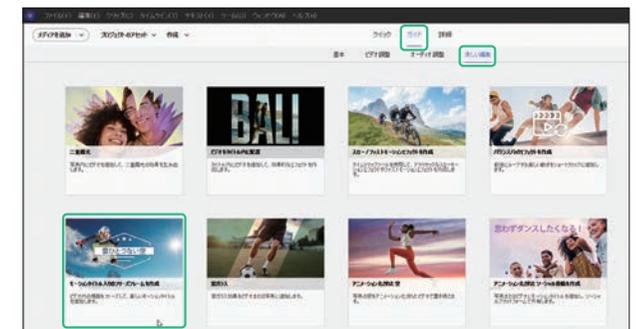
HINT
テキストが選択できない場合

手順2でテキストがうまく選択できない場合は、タイムラインに配置されたテキストクリップをダブルクリックしてから、テキストをドラッグして選択します。



STEP
UP
タイトル作成の応用

タイトル機能単体だけでなく、モーションタイトル機能とフリーズフレーム機能を組み合わせることで、シーンの途中で静止するのに合わせて、モーションタイトルをより印象的に見せることができます。くわしい操作方法は「ガイド」内で学習できます。[ガイド]→[楽しい編集]→[モーションタイトル入りのフリーズフレームを作成]の順にクリックして、試してみてください。



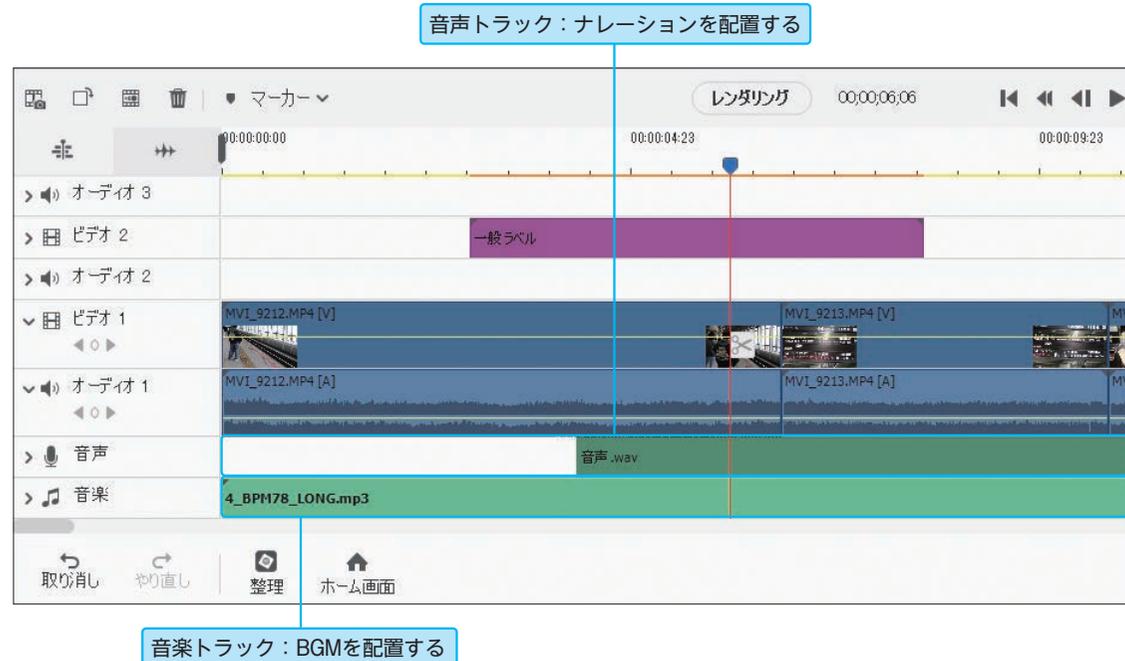
オーディオ機能について理解する

Premiere Elementsでは、音声、BGM、効果音、ナレーションなどのオーディオファイルを扱うことが可能です。映像だけではイマイチのムービーにオーディオを加えると、表現力が一気に高まります。

1 Premiere Elementsのオーディオ機能について

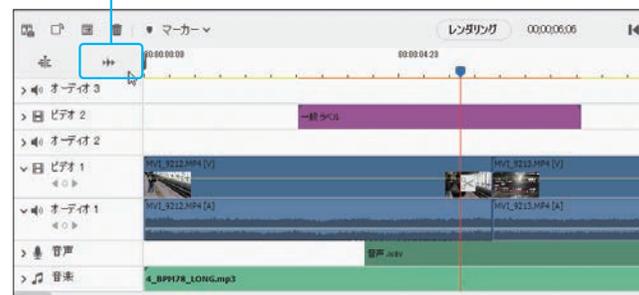
Premiere Elementsのトラックには、ビデオクリップに付随するオーディオトラックのほかに、「音声トラック」と「音楽トラック」が用意されています。通常、音声トラックにはナレーションを配置し、音楽トラックにはBGM

を配置します。それ以外のトラックは自由に追加できるので、効果音用のオーディオトラックを別に追加することも可能です。

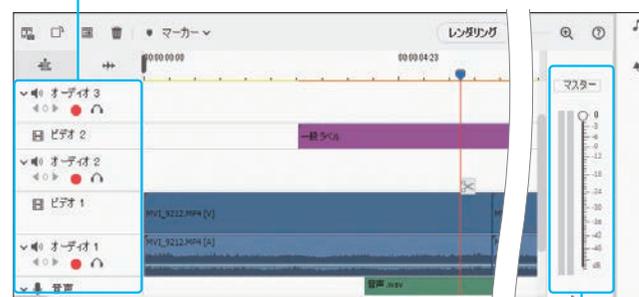


2 タイムラインの表示を切り替える

1 [オーディオ表示を表示] をクリックしてオンにすると、オーディオパートが表示されます。



2 すべてのオーディオトラックが展開されました。



3 [マスターボリュームコントロール] が表示されます(右下のMEMO参照)。

MEMO この章での設定

以降、この章では [オーディオ表示を表示] をオンにした状態で作業を進めます。

MEMO マスターボリュームコントロールの役割

マスターボリュームコントロールでは、トラックごとではなく、編集しているプロジェクト全体のボリュームを調整できます。

MEMO Premiere Elementsで扱えるファイル形式

Premiere Elementsでは、以下のファイル形式のオーディオを扱うことができます。

- 読み込み**
アダプティブマルチレート圧縮 (AMR) (.amr) / オーディオインターチェンジファイル形式 (.aif、.aiff) / アドバンストオーディオコーディング (AAC) (.aac) / MPEG オーディオ (.mp3) / ドルビーデジタル (.ac3) / QuickTime オーディオ (.mov) / Waveform (.wav) ※ Windowsのみ / Windows Media オーディオ (.wma) ※ Windowsのみ
- 書き出し**
オーディオインターチェンジファイル形式 (.aiff) / アドバンストオーディオコーディング (AAC) (.aac) / MPEG オーディオ (.mp3) / QuickTimeオーディオ (.mov)

ムービーをファイルとして出力する

編集したムービーをファイルとして出力することで、パソコン間でのデータのやり取りや管理がしやすくなります。ファイル形式はいくつか用意されていますが、ここでは、一般的なMP4、H.264を使用します。

1 ファイルとして出力する



① [書き出しと共有] をクリックし、

② [デバイス] タブをクリックします。

③ 用途に応じたデバイスを指定します (右下のMEMO参照)。



メモ デバイスの指定について

手順③では、出力したムービーを視聴するデバイス (機器) を指定します。デバイスによって、使用できる解像度やファイル形式に違いがあります。

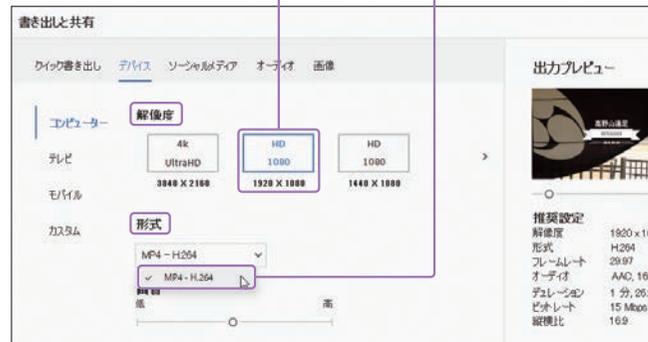


メモ ここでの設定

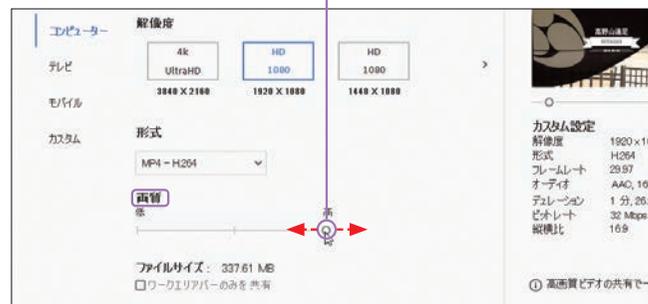
手順③では、例として [コンピューター] タブをクリックします。

④ 解像度をクリックして選択し (MEMO参照)、

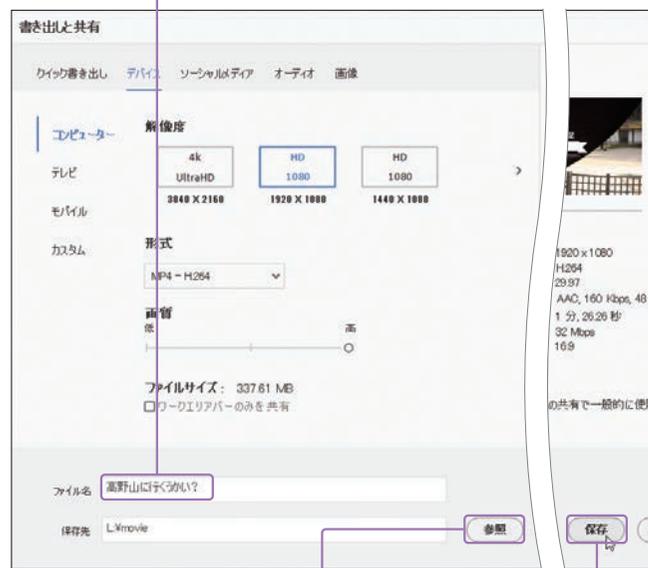
⑤ ファイル形式を指定します (中段のHINT参照)。



⑥ [画質] スライダーをドラッグし、画質を調整します。



⑦ ファイル名を入力します。



⑧ [参照] をクリックしてファイルの保存先を指定し、

⑨ [保存] をクリックします。



メモ ここでの設定

手順④では、例として [HD1080 (1920 × 1080)] を選択します。



ヒント ファイル形式について

手順⑤では、例として [MP4-H.264] を選択します。MP4 (エムピーフォー) は動画圧縮ファイルを格納するファイル形式の1つで、H.264 (エイチ・ニ・ロク・ヨン) は動画の圧縮形式を示します。



ヒント [ワークエリアバーのみを共有] とは

通常は、ムービーの長さに合わせて出力されますが、[ワークエリアバーのみを共有] にチェックを入れると、ワークエリアバー (Sec.05参照) で指定した範囲を出力します。